

## 点数や順位よりも

夏休み明けの実力テストが本日ありました。制服に身を包んだ生徒たちが出席番号順に並んで、いつもの授業とは一味違った緊張感をもって臨みます。テストである以上、一点でも多く点数を採りたいというのが正直なところでしよう。

点数や順位が当然気になるところでしょうが、もつと気にしてほしいことについて書きます。それは偏差値です。それを気にすることについては賛否両論あるでしょうが、過去の自分を超えようと思うなら、点数や順位よりも気にするべきものだと私は思います。

偏差値とは、そのテストを受験した生徒の中で、得点がどの位置にあるかを示す指標で、難易度の異なるテストの結果を比較する際に有効です。

ある教科について、前回の実力テストの点数が50点で、今回が80点だとします。30点上ったからと言って決して喜ぶことはできません。なぜなら、今回のテストが簡単で多くの生徒が高得点を採った可能性があるからです。その逆も言えます。今回のテストが難しく、点数がなかなか採れない場合だってあるのですから。

そんな時、テストの難易度に関係なく、自分がどれくらいの位置にいるかを示す値があったらどうでしょうか。その値を見れば、力が上がったのかついていないのかがわかるわけです。その値が偏差値です。偏差値について詳細な説明をしていると、かなり長くなりますので、ここでは簡単に説明します。

もしあなたの偏差値が50であったら、それはあなたの得点が平均点であるということを表します。それよりも上であれば、平均点以上、下であれば平均点以下ということになります。そして50をどれくらい離れているかで、あなたの力がわかるのです。ただし、偏差値が100ということはありません。偏差値70であれば、上位成績0.2%に入ると言われています。

また、教科によって偏差値に大きな差がある場合、得手不得手が明確にわかります。数学は偏差値60であるにもかかわらず、英語は40であれば、英語を苦手としている生徒であることは一目瞭然。効果的な対策を少しでも早くとらない限り、三年間の英語の偏差値はずっと40近辺になるでしょう。ひよっとしたら、偏差値がどんどん下がっていくということになるかもしれません。

逆に、一年の頃の英語の偏差値は40であっても、実力テストを重ねるたびに45、50、55と上がっていけば、英語の力を付けているということになります。もちろんその逆もありますけどね。

点数や順位は自己満足な値ですが、偏差値はその人のその時の力が伸びているかどうかを表します。実力テストが返ってきたら、真つ先に偏差値を見てください。そして、過去の実力テストの偏差値を並べて、力が付いているかどうかを確認してくださいね。